

令和元年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

- 学校の教育目標 1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成 2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成 3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成
 ○ 本年度の重点目標 1 いのちの教育と生徒指導の充実 2 探究型学習の推進による学力の向上 3 進路指導の充実とキャリア教育の推進 4 地域連携の促進と郷土愛の醸成 5 健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり 6 読書習慣の形成と感性教育の推進
 ○ 本年度の評価 【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

領域	重点目標	具体的目標・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学習指導	<p>【探究型学習の推進による学力の向上】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。 生徒の授業評価による授業改善や研究授業を通じた授業力の向上を図る。 ICT機器及び環境を整備し、効果的運用を促進する。 <p>【読書習慣の形成と感性教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。 探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けて、探究型学習を取り入れた授業の互観を年3回（内、他教科を1回）以上行う。 毎日の家庭学習時間を、学年（年次）+2時間以上を目標に取り組ませる。 探究型学習の成果として、校外発表を年間50件以上行う。 読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。 校内読書感想文コンクール等への積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。 教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業互観の目標は達成できたが、探究型学習が確かな学力に結びついているかの検証は不十分である。 主体的な課題研究の取組と外部発表・活動の成果は良好であった。 家庭学習時間がやや不足し、学年（年次）+2時間以上の目標達成ができない学年（年次）があった。 読書課題提出率100%を達成した。 教科・探究学習における図書館利用は昨年より大幅に増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストも視野に入れ、探究型学習及び教科横断型学習の研修の機会を設けながら山東探究塾Ⅲの教育プログラムを構築する。 本校の課題解決となるような新カリキュラム編成に取り組む。 学習時間調査等を踏まえて、家庭学習時間の確保と適切な課題の内容・量を教科・年次と連携しながら設定していく。 教科及び各年次との連携を図りながら更に効果的な図書館活用を進めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習においては、遠くに行政や他機関との協力を得て行うものに関して、学校内の学習だけでは得られない、貴重な学習体験になっている。学生といえども、一社会人として行動する機会は生徒の自覚を強め、より学習意欲を増すことにつながると思う。今後、増々探究活動が定着し、広がることを期待している。 探究型学習の取組を更に発展してほしい。 自ら進んで学ぶ探究型学習へのいち早い展開はすばらしいものがあると思います。授業や発表会で山形東の生徒らしいすばらしい学習内容を見ることができました。今後の発展と生徒たちの活躍、期待しております。 探究型学習では、生徒のシンガポールでの研究発表や、ふるさと探究などが山形新聞などで大きく報道されており、その活動について県民の間でも徐々に理解が進んでいると思われます。探究の思考のプロセスはその後の人生においても有益だと思われま。今後も大いに推進していただきたい。
進路指導	<p>【進路指導の充実とキャリア教育の推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路学習を行うため、各学年（年次）で必要な指導について共通理解を持って進める。 超難関大学・医学部医学科への志望実現のための各教科の指導方法や研究を更に深める。 生徒が自己の在り方生き方を考え、自己実現に向けた進路選択・決定ができるように、「キャリア教育総合実践プログラム」に基づきキャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導・実践的教科指導について、本校の実情を踏まえ、グローバル化や他県・他校の状況を視野に入れながら、3年間を見通した指導内容や指導法の研究に努める。 東大・京大合格者数合わせて2桁を目指す。 山形大学、その他国立大学医学部医学科の推薦・AO入試について研究を深め、医学部医学科現役合格者数のアップを図る。 キャリア教育推進のため、郷土研修・首都圏研修等で他機関と十分な連携を図る。また、生徒の学ぶ力を育むため、各課・各学年と共通した認識で指導を実践する。学業面だけではなく、生活の様々な悩みを解消し健全な心身の発達を目指すために、保健課との連携を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種研究会、協議会を通し、県内外の多くの学校と情報交換を行い、本校での進路指導に活かすことができた。 郷土研修等により県内の企業について理解を深めることができた。 山形大学医学部医学科推薦入試では多くの合格者を出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究会等で得られた情報の共有を更に進めるためにグループウェアを活用する。 医学科志望者については県の「医進塾」への参加等を通し、医師を目指す上での心構えを学ばせるとともに、基礎学力を定着させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 超難関大学・医学部医学科への志望実現は今後とも期待しています。 新型コロナの感染防止という観点から、大学受験その他、神経を使う学年末となり、その労苦に敬意を表します。 一旦は首都圏など県外に進学しても、再び故郷に戻り山形県発展に尽力してくれるような人材を心待ちにしています。たとえ戻らなくても故郷を忘れない、心の片隅に「山形」を抱き続けてくれる社会人を育てていただければありがたいです。 医学部進学について、勉強面でない。多方面からの教育が必要と思われる。医療現場ではチームリーダーの役割をも期待されるので、その基礎づくりが必要。 県内企業への理解と訪問はこれからの山形県にとって大切なことです。継続的に行っていただきたいと存じます。また様々な職業があることへの理解、それに伴い、専門知識を得るために大学を選ぶこと、学習指導を行うこと、受験のための学習ではなく、将来のための学習であることを教えてください。
生徒指導・特別活動	<p>【いのちの教育と生徒指導の充実】</p> <ol style="list-style-type: none"> かけがえのない「いのち」を大切にし、自分の「いのち」、他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。 基本的な生活習慣を身に付けさせ、自律・安全の精神を養うとともに、生徒観察を充実させる。 生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。 社会参加の意識を高め、実践による自己拡大を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の安全を図り、交通事故ゼロをめざす。 学校内外を問わず、いじめを許さない人間性を育み、その防止に取り組む。 毎月の出席率平均が99.0%以上をめざす。前期において各学年（年次）の皆出席者を明確にし、1年間皆出席者を全校生の50%をめざす。 3年間の皆出席者を3学年生徒の25%をめざす。 部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。 社会参加・ボランティアを促し、各種の地域・施設情報を特定掲示板で毎月定期的に紹介し、参加しやすい体制をとる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動が上位入賞を目指して健闘し、団体5種、個人11人が全国大会に出場した。 自転車自動車に接触された事故6件、自損事故4件、自転車同士1件、自転車での歩行者への加害事故1件など、合計14件の事故が発生した。 ボランティア活動については資料提供と掲示を行っているほか、部活動等で行っている。今年度も、生徒会が中心となりアフガニスタンにランドセルを送るボランティア活動を実施し、114個を集め、発送した。また、山形市福祉協議会と連携し、除雪ボラン 	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動の成果に結びつくトレーニング講習会の実施を検討する。 交通事故防止について、集会での呼びかけや日ごろの安全指導を心掛け「0」を目指す。 地道に実施しているボランティア活動を広報するとともに、「えがお大作戦」に関しては、実施の可否について生徒会常任委員と協議する。 ここ数年で、出席率・皆出席とも減少傾向にある。保健課とも情報交換を密にしながら、心身共に健康で丈夫な生徒育成に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 探究型授業の中から、自らボランティアや地域との関わりをさがす活動を行ってもいいと思います。毎年同様のボランティアではなく、生徒自らが何のためにするのか、理解できるものにしてほしいと思います。 自転車事故は十分注意するように喚起してください。反射材などを活用し、自分の身を守る方法の指導をお願いいたします。 心身共に健康、健全をめざしても、社会のひずみ等が青年期の生徒には難しいこともあるかもしれない。それでも根気強く指導にあたっていただければと思います。

				<ul style="list-style-type: none"> ティアを行っている。 いじめ防止に取り組み、認知件数は5月3件(経過観察3件)、11月2件(経過観察2件)である。 出席率は98.8%、1年間皆出席者38.5%、3年間皆出席者が23.7%と目標を達成できなかった。 				
健康 安全 指導 ・ 環境 整備	<p>【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身の健康の維持・増進を図る。 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。 学習環境の整備・保全とその美化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会の「保健だより」年間5回、保健課発行の広報紙を年間10回発行して、心身の健康の保持増進を図る。 年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。 清掃徹底日(毎週月曜日)と月例大掃除の取組により、校舎内外の環境美化に努める。 防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1月末日までに「保健だより」7回、「はあと」6回発行。カウンセラー相談日は16回実施し、生徒保護者のべ72人の利用であった。 4校時後の清掃は良好であった。 各種訓練等は計画どおり実施した。 メール送受信システムの活用により、各行事等の連絡などに有効に活用された。 事務部と連携し、危険個所の補修・改善に努めた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員の自主的活動と環境衛生活動に努める。 危機管理の重要性を再確認し、資料を作成したり、活用したりすることができるよう安全管理を徹底する。 分割授業増加に伴う教室や備品不足への対応、整備に努める。 限られた予算の有効活用のため継続して節約に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 予算に限りがあることは十分承知しておりますが、暑さ対策、寒さ対策等、ハード面で補えることは随時行っていってください。 今後、抗ウイルス対策も必要になってくるかもしれませんが、心のケアはぜひ継続お願いします。 危機管理の重要性が問われる時代なので、他人の批判は簡単だが、自分のこととして真剣に考える力を養ってほしい。 授業参観で校内を拝見しましたが、懸念要素もなく健全に運営されている様子がうかがえました。学校施設の環境に関しては、全教室に一日も早く冷房施設の整備が望まれます。
家庭 地域の 連携	<p>【地域連携の促進と郷土愛の醸成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習活動や社会参加活動において、積極的に地域との連携を促進する。 地域コミュニティの一員として地域をよく知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 学校・家庭・地域の連携を一層深める。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A総会・研修会(公開授業を実施)の出席率70%以上をめざす。 P T A会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> P T A 関係の行事は滞りなく実施し、P T A総会、学年(年次)の研修会等70%を大きく上回る出席があった。学校評価アンケート結果も報告され、課題の共有がなされた。 1年次の「職業人インタビュー」における、地域で活躍する卒業生による講演や2年次の「郷土研修」における、県内企業・研究機関への訪問、研修を通して、郷土やまがたの現状と課題を認識し、地域貢献に対する意欲を喚起することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種アンケートや行事等を通して、保護者・地域の意見をすくい上げ、学校・家庭・地域との連携強化に努める。 地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備を進め、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる醸成に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 場所を選ばず仕事ができる時代になりつつあります。地域の理解と、地方の良さを伝えることができる人材を育て、山形でも多くの仕事があること、できることがわかれば、いずれ山形に戻ってくるのではないかと思います。楽しみにしております。 郷土研究の取組を継続してほしい。
学校 運営		<ul style="list-style-type: none"> ゆとり創造運動を推進し、土曜講習等に伴う代休措置の取得率100%をめざす。 「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 土曜講習等の代休取得率は、各学年(年次)とも100%であった。 光熱水費の対前年度比(2/10現在)は次のとおりであった。 電気 3.7%減(282,914円減) 水道 2.3%減(100,229円減) ガス 3.6%減(32,300円減) 全体 3.2%減(415,443円減) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化等を通し、ゆとり創造運動を推進する。 職員及び生徒へ一層の節約に向け周知・啓発を行う。 限られた予算中であるが、今後改修等の機会をとらえて、照明のLED化やトイレの節水化への対応に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎年数値目標が見える化し、全体的な改修と細部の削減に努めてください。 先生方のお休みも必ず取得するよう今後も取組をお願いします。 生徒が生活する場としての環境づくりを推進していただきたい。